

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年3月28日				
がまごおり・ふれあい場						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	☐		5～7名のグループにわけて2部屋で活動をおこなったり、プレイガーデンを使ったりして、安全に体を動かし遊べるようにしています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	☐		毎朝打ち合わせで、どの時間も職員の目が届くように細かく話し合っており、その日の職員の動きを決めています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		☐	・必要な方には駐車場までは職員が付き添って手伝うようにしています。 ・クールダウンできる場所を作ったり、集中してほしい時に周りが気になる子にはパーテーションを用いたりして、落ち着いて生活できるよう工夫しています。	構造化された環境になっていると思いますが、事業所が2階にあり、エレベーターなどなく、バリアフリーとはいえません。左記のような工夫をして対応していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	☐		おもちゃ遊びの時間以外には、おもちゃ棚にカーテンをひいたり布をかぶせたりして活動に集中ができるようにしています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	☐		必要に応じて、パーテーションで囲ったり、各部屋に段ボールでカムダウンエリアを設置しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	☐		朝と活動後のカンファレンスで意見を出し合っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	☐			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	☐		活動後に、その日の出来事や環境構成で変わったことなど職員間で共有しています。毎月の職員会議で意見交換できる機会があります。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		☐		第三者評価は必要と感じていますが、実施できていません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	☐		・リアルタイム研修だけでなく、オンラインの動画視聴なども用い、必要な研修が受講できるようにしています。 ・今年はチーム別研修を行い、違う部署の人との交流と勉強会が行われました。	短時間の非常勤職員が複数いるため、時間的に難しいことが多いですが、必要なものには参加できるように配慮しています。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	☐			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	☐		事前にアンケートに記入してもらうことで保護者の希望や困っていることを把握した上で面談を実施し、計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	☐			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	☐		支援計画は記録用のファイルに添付して、どの職員も把握できるようにすると共に、支援内容をカンファレンスで伝え周知しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	☐			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	☐			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	☐		個人で案を立てる場合も、職員間で利用者の状況を聞き、どんな配慮が必要かを一緒に考えています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	☐			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	☐			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	☐			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	☐		その時間にいる職員で、その日にあった活動の様子を伝え合い、引き継ぎが必要な事項は不在の職員にも伝わるようワインワークスで共有しています。	短時間の非常勤職員が複数いるため、話し合いや情報共有が難しいところがあるが、全職員間でワインワークスを利用し、情報共有に努めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	☐			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	☐			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	☐			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	☐			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	☐		サービス担当者会議の中で保護者の方を了承を得て発達検査の結果をお伝えしたり、事業所での様子をお伝えしたりして、保育園等との共有理解・支援の必要性を共有するようにしています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	☐			
	28	(28～30は、センターのみ回答)	☐			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	☐			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	☐			
	31	(31は、事業所のみ回答)	☐			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	☐		年少児以上の年齢の利用者は、希望すれば交流保育に参加することができます。未満児の利用者には保育園の園庭開放をお知らせしています。保育園や幼稚園に通いながら、当事業所を利用することもできます。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	☐			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	☐		今年度は5グループでペアトレを実施しました。年度途中で利用された方も数名で実施しました。さらに後から利用開始された方には地域の勉強会を案内しました。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	☐			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	☐			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	☐			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	☐		定期的な面談だけでなく、日々の会話の中で思いをくみ、必要なら面談をしたり助言や支援をしています。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	☐		保護者交流は、おしゃべり会を定期的に行ったり、OBの話を聞く機会を設けたり、情報交換できる機会を提供しています。きょうだい同士で交流する特別な機会は設けていませんが、好きな遊びの時間に療育室で一緒に遊んでいます。	きょうだい児の相談も面談時や日々のお話の中でお聞きしています。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	☐			忙しいのでいつ相談したらいいのかと思ったとお聞きしたことがありました。相談用紙を室内に設置し、相談しやすい雰囲気と共に方法を提示します。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	☐		毎月活動内容をお知らせする通信を発行するとともに、オープンチャットにて随時連絡出来る方法もとっています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	☐			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	☐			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	☐		子どもたちの作品展を関係機関の人たちに見に来てもらったり、見学の際は同行してもらうなどしています。	事業所の所在地が住宅地になく、地域住民を招待する等はありません。事業所フェアなどには積極的に参加しています。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	☐		法人の危機管理委員会（感染症対策検討会）の衛生チェックを受け、職員全員で吐物処理体験研修を受けました。	未整備のマニュアルがありますので、整備を進めます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	☐			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	☐			事前に通院や服薬は確認していますが、予防接種や定期通院先で受けている助言内容などを共確認できる仕組みを作ります
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	☐		今年度は医師の指示書に基づく食物アレルギー対応が必要なお子さんはいませんでした。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	☐			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	☐			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	☐			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	☐			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	☐		今年度は該当者がいませんでした。	